

◆2011『パリ祭』

荒木まどかさんのハープ演奏にうっとり

2011年度総会と記念コンサート、パリ祭レセプションは7月10日津市の都ホテルで開催、特に荒木まどかさんのハープ・コンサートには会員外もふくめて約80名が来場してあてやかな演奏とハープについての楽しいトークを満喫しました。

今年ヨーロッパでの研鑽を終えて帰国された荒木さんは、津市の自宅を拠地として音楽活動を続けられる予定で、まず11月には下記のコンサートでの演奏が決まっております。ご来聴ください。なお来年3月には名古屋でオーケストラと共演の予定。



11/27 Demain ー秋に集うー 20回記念

同コンサート実行委員会主催

日 時：11月27日(日) 午後2時開演  
 場 所：津市 リージョンプラザお城ホール  
 入場料：一般 2,000円 学生 1,000円  
 ※荒木まどかさんはピアニストの松生純歩さんとの共演で  
 パリシュ・アルパース/チェルニー共作  
 華麗な幻想曲ーハープとピアノのためのー を演奏します  
 チケットなど詳細は、荒木まどかさん 059-225-8962 まで。

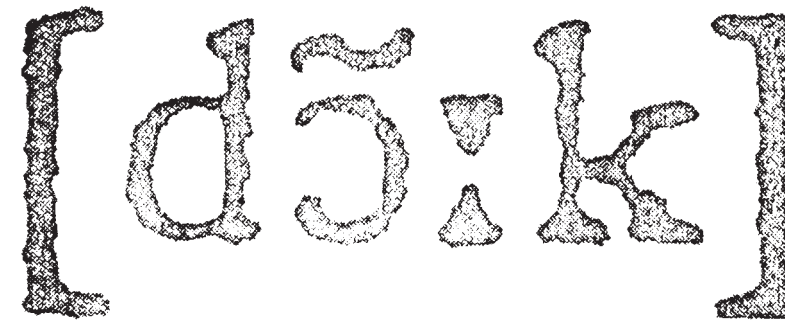
10/13~ 四日市で"秋の短期フランス語講座" 始まる(主催事業)

日 時：10月13日(木) より毎週木曜日・全10回  
 午後6時50分~8時50分  
 場 所：四日市市 じばさん三重 (近鉄四日市駅西)  
 講 師：ファブリ・ショパン氏 (アリアンス・フランセーズ愛知・講師)  
 内 容：「入門コース」と「初級コース」に分かれる  
 参加費：20,000円  
 ※まだ受講申し込み可能です。  
 詳細は豊田元子さん 090-3157-8733まで。

11/18 2011ボジョレ・ヌヴォー・パーティー (後援事業)

主催：ワインショップ・ウチヤマ

日 時：11月18日(金) 午後6時30分より  
 場 所：さくら情緒食堂・アンダルシア (三重県教育文化会館1階)  
 会 費：6,000円  
 お問い合わせ：ワインショップ・ウチヤマ 長田さん  
 059-226-3312



DONC どんく

N°92 octobre 2011 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418  
 418, Komei-cho Tsu-shi  
 TEL 059-226-2766  
 FAX 059-229-0967

11/8(火) 第2回「渚のサロン」はグットマンさんの講演

三重日仏協会(創立1987年)は来年25周年を迎えます。これに先立って、何か新しい文化活動をという声があがり、会員が気楽に楽しめる集い「渚のサロン」が、昨年10月開催されました。会場は阿漕海岸にちかく潮騒の音が聴こえます。これがネーミングの由来です。この秋、第二回「渚のサロン」を企画いたしました。

毎回、三重県在住で活躍されている方をゲストにお招きしてお話をうかがいますが、今回は三重日仏協会常務理事で、三重大学人文学部准教授のティエリ・グットマンさんにご講演いただきます。秋の夜長、グットマン先生の静かな思索の世界に、われわれもしばしひたってみましょう。

- ◇日 時 11月8日(火曜日) 18:00~21:00
- ◇場 所 グリソン・ビル(倉本健康管理システム)  
津市津興280-2 (Tel 059-222-1021)
- ◇講 師 三重大学人文学部准教授 ティエリ・グットマン氏  
お話のテーマ：「宗教と政治ー日・仏・米に見るー」  
お話のあとは、秋の海をながめながら、ゲストを囲んでワインと食事を楽しめます。ワインの解説は、長田康二氏(ワインショップ・ウチヤマ)です。
- ◇会 費 講演会(無料) 夕食会 3,000円(ワインを飲まれる方は 5,000円)

<講師のひとこと>

私は昨年、<Shintô et politique dans le Japon contemporain>(現代日本における宗教と政治)という題名の本をフランスで出版しました。「神道政治連盟」という神社本庁が組織する圧力団体と自民党との関係がこの本の主なテーマです。しかし、この本の第4章では現代アメリカとフランスにおける宗教と政治の関係も日本との比較で紹介、さらに最終章では、3か国の事例に基づいて現代民主主義国家における宗教と政治の関係モデルの構築を試みました。今回の講演では、そのモデルをわかりやすく、具体例を多く交えながらお話ししたい。神道とキリスト教、その政治とのかかわり方はだいぶ違うように思われるかもしれませんが、実はその構造がきわめてよく似ているのです。

参加ご希望のかたは、矢野 隆嗣まで  
 メール getz-evans1964@rmail.plala.or.jp 携帯 090-2341-3789

## ニース⇄モナコ 美味珍道中

三吉 研一

ニース空港に降りた時は夜の8時をまわっていた。天気は快晴、青空の下タクシーに乗り込む。どこまでも美しく続く紺碧の海と白い砂浜を右手に眺めながらドライブを楽しむ。程なくホテルに到着。妻と義母との3人の珍道中が始まった。夕食をとりやすくホテルを出た。目の前の大通りと美しい砂浜の間に遊歩道「プロムナード・デザングレ」が旧市街の方まで続いている。タクシーに乗るには微妙な距離、この晴天、ニースに来たんだ旧市街までプロムナeshしようとして遊歩道を歩きだした。やがて日も沈み夕暮れの風情となってきた。その時前方から三輪自転車が走ってきた。引いている3座のシートは空席だ、迷わず乗り込む。「食事をするのなら少しはずれだけれど良い店がある、トラストミー」とマルセイエの若い運転手？君、自転車をこぎながらのたまう。そのレストランLEO'Sは港の見えるところにあった。ニース風サラダ、ローストした海老のサラダ、マグロのステーキ？（厚さ2~3センチ、表面以外はほとんど生の大きな塊、美味！）、フォアグラのハンバーガー（？）、マグレドキャナル（最高！）いつもの我が家のパターンで注文しすぎ！黒板のワインリストにはブルゴーニュ、ボルドー、ロワールが並ぶ。この地のものへの未練もあったが、道中まともなワインに餓えていたし、移動の疲れも癒したい、今日の所は冒険せずにサンセール（サンセールの白）をグラスで注文する。うむ美味。こういう時にサンセールは間違いがない。同じものをもう一杯、サンセールの赤も一杯（このピノも最高）、各13ユーロ、マグレ鴨の19.5ユーロと比べると高い気もするが、満足。おなかも満足、港から吹くニースの風が心地よい。再びマルセイエの若者君に迎えに来てもらい、旧市街経由で帰ろう。クルーザーが所狭しと停泊している港を巡った後旧市街へ入った。12時を過ぎているのににぎわいの凄いこと。どの広場にもレストランのテーブルがずらりと並び、飲めや食べやでお祭りの様。今日は7月25日（月曜日）です。大道芸で盛り上がっている広場もあった。美味しい料理に会い、ニースの旧市街も十分に楽しんだ。遅い到着だから初日は寝るだけだと思っていたので一日得した気分、三輪自転車のマルセイエに感謝。

翌朝はゆっくりと朝食をとった。もう昼過ぎだ、いざモナコへ。夕食は<オテルドパリ>の最上階にあるルグリルが予約してある。上等なレストランへは目一杯着飾って行き雰囲気もコミで2倍楽しみたいので、一度ニースへ戻り着替えることに決めていた。行きは鉄道（SNCF、3.5ユーロ）、帰りは海岸線に行くバス（1ユーロ、たぶん）、そしてタクシーでもう一往復と計画する。ニース駅は混雑していた。窓口の行列を見て自販機に初挑戦することにした。マシンにクレジットカードを入れ恐る恐るボタンを操作、案ずるより簡単に切符3枚を手にした。売店でエビアン3本も購入。順調にツアコンしている。列車も混雑、かろうじて妻と義母の座席を確保。モナコ駅に到着。下車。その時、やってしまった！！右肩に下げたショルダーバッグのファスナーが開いている。中に入れたポーチが、



ニースの輪タク

無い！パスポート3人分、ユーロすべて、クレジットカード2枚、預かっていた義母の少なからぬ額の日本円などと共に、ポーチごと消えていた。大失態だ。しかしその時妙に冷静に、悪い条件が幾つか重なった時に必ず事故は起きると納得していた。言い訳はこうだ。前夜寝つけず寝不足で注意力が散漫だった。モナコだからとパスポートを携行してしまった。義母の飛行機の疲れを考え午後から行動した事がツアコン（私）を多少焦らせた。混雑した列車には雑多なバカンス客が乗っていた。パリのメトロと違い私自身がバカンス気分になっていた。列車の通路に段差があったので義母を気遣いながら下車した。若い男2人にお先にどうぞと言われ、先に下車した家族の一員と思いこみ親切な2人だなあと彼らを背後に回らせた。歩いているとショルダーバックから中身を抜かれても気付かない。言い訳を並べてもしかたがない。油断したのだ。気を取り直し妻のケータイでカードを止め、パリの日本大使館へ連絡し、モナコの警察で調書を書いてもらう、大変な一日となった。疲れ果てて警察を出るや、近くのイタリアレストランへ駆け込んだ。ミネラルとビールをたのもうと店を見渡すとテーブルにはクロス、食器とグラスもセットしてある。スパゲッティボロネーゼ（11ユーロ）も一皿注文することにするが誰もほとんど手を付けなかった。このレストラン、<ドルチェ・ヴィータ>という。観光気分になれないので鉄道でニースへ戻った。ホテルでディナーのために身なりを正したら、憂鬱は少し薄まった。現金を盗まれたのでクレジットの使えるタクシーを呼んでくれとフロントでダダをこねていたら、ロビーのマシンでキャッシングが出来るよとコンシェルジュが言う。キャッシング イコール 借金と思っていた古い私、生まれて初めてクレジットカードで（妻のカードだが）キャッシングした。なんと、いとも簡単にユーロが出てくる！好きなだけ出てくる。憂鬱は完全に吹き飛んだ（決して妻のカードだからではない）。元気一杯で3人はタクシーに乗り込み、「モナコの観光地をぐるっと回ってから<オテルドパリ>へやってくれ」。モナコの旧市街は崖の上、タクシー観光は正解だった。



モナコ<オテルドパリ>の前で

サービス精神旺盛なドライバー氏は他の交通もかえりみずにF1のポールポジションで一時停止をしてくれた。舗装にはスターティンググリッド跡が残っていた。ふと左を見ると目の前にレストラン<ドルチェ・ヴィータ>が。特等席のレストランだったのだ。モナコ観光に満足しつつオテルドパリに到着、贅をつくしたロビーに入る。アランデュキャスの<ルイXV>（今日は定休日）を右手に見ながら奥へ進み、デスク左方のエレベータで、ルグリルへ。オマールのサラダや仔羊のグリルを堪能し、最後に名物のスフレ・シヨを注文する。私はフランボアーズ風味をチョイス、妻と義母はバニラ。これがとてつもなく巨大、とてつもなく美味、20ユーロ、セデリシュウ・メ・ジュネパファン、残してゴメンナサイ。そうそう、料理に夢中で忘れていた、このレストラン、なんと天井が開閉する！まだ青空の時間に2、3回開けてくれた。昼の失態はすっかり忘れ、素晴らしい時間に身をゆだねることができた。帰りがけレストランのベランダからライトアップされたカジノを見下ろし、昼間訪れそこなった埋め合わせをして、モナコを後にした。

（三重日仏協会・理事）